

平成20年8月新城市教育委員会定例会会議録

1 開会宣言 平成20年8月28日(木) 午後3時31分

2 場 所 新城市勤労青少年ホーム研修室B

3 出席者 中根 正介委員長、馬場 順一職務代理委員、川口 保子委員、
菅沼 昌人委員、和田 守功教育長

4 委員以外の出席者

教育部長	夏目 勝雄	副部長兼庶務課長	今泉 敏彦
学校教育課長	浅倉 芳包	生涯学習課長	滝下 一美
文化課長	村田 道博	スポーツ課長	小倉 君夫

5 議事

日程第1 前回会議録の承認

平成20年7月教育委員会定例会会議録

日程第2 教育長報告

日程第3 協議・報告事項

- (1) 学校再配置協議状況について
- (2) 当面の行事予定について(各課)
- (3) その他

日程第4 その他

6 審議の経過及び結果

日程第1 前回会議録の承認

中根委員長から平成20年7月教育委員会定例会会議録について諮り、承認と決定

日程第2 教育長報告

和田教育長から次の報告を行う。

- (1) 8月の動き
- (2) 当面の諸課題から
- (3) 9月市議会から
- (4) その他

日程第3 協議・報告事項

(1) 学校再配置協議状況について

(委員長) (1) 学校再配置協議状況について、説明を求めます。

(教育部長) これまで、黄柳野校区において2回、それとは別に小学校のPTA会

長による「学校再配置懇談会」を3回開催しております。

はじめに、黄柳野地区の話し合いの結果についてお伝えします。学校統合については、全員が賛成であるというか、やむを得ないという認識をされております。ところが、保護者の多くが、統合するのであれば、山吉田小学校とではなく、鳳来中部小学校と統合してほしいという希望が強くあります。このことは、当初の選択肢に入っていませんでしたので、持ち帰って検討する旨をお答えしました。

そうなりますと、今まで前提としていた山吉田小学校と統合して耐震改築するという計画が崩れてしまいますので、当初予定の耐震化計画の見直しにまで踏み込むことにもなりかねません。すぐに鳳来中部小学校統合を受け入れるわけにはいかないわけです。山吉田地区については、黄柳野小学校との統合を進めてほしいという強い要望がありますので、それと全くかみ合っていない状況になっています。

したがって、山吉田地区へ現状をお話しし、今後山吉田小学校区が希望するような形で耐震改築を進めるのであれば、統合について教育委員会に任せるという姿勢ではなく、もう少し地域主体で行動していただくようなお願いをしていきたいと思っています。

今後数回の会合を重ね、最終的な改築・再配置案になるだろうと思いますが、山吉田の場合は、耐震化が一番遅れていますので、ほかのところとは異なる側面があります。

一方、再配置懇談会については、これまで3回開いてきましたが、全員一致した意見は持ち合わせていません。これまでの会合を通して言えることは、概ね80%の保護者・PTA会長が、統合に肯定的であるということです。そうした中、市は、3回目の再配置懇談会のときに、過去2回の意見をたたき台としてまとめた『学校再配置指針素案』というものをしました。その内容について触れます。

まず、学校再配置の理論的な考え方ですが、3つの柱からなり、一つは「子供にとって同学年のより適切な学習集団の実現」、二つめは「地域にとってよりよい子育てのあり方と地域文化の発展の配慮」、三つめは「新城市にとってよりよい教育、より適切な学校配置を展望する」、この三つの柱を基本的な考え方として、最後の箇所に指針案としてまとめてあります。「新城市の適正な学校規模は6学級以上とする、5学級以下の学校については地域合意を前提として順次統合を進める」というものです。

会合では、いろいろな意見が出されましたが、今後そうした意見も参考にしながら、再度統合指針、再配置指針をまとめ、改めて次の会でお示しする旨、話しました。

最後に、統合指針素案の今後の進め方ですが、年度末には教育委員会

として再配置指針をまとめることができたらと考えます。21年度には議会の総務文教委員会に説明し、議会からも意見をいただき、最終的には新城市としての指針にまとめていくことになろうかと思えます。21年度から22年度にかけては、相当時間をかけて、細かな地区ごとの説明、話し合いを進めていくことになろうかと思えます。

(委員長) 説明がありましたか、ご質問はありますか。

(委員) 通学の足の確保はよろしいですか。

(教育部長) 足については、市長も確保しなければという考え方です。この問題は、教育部と公共交通を担当する企画部とが連携をし、対応していきたいと考えます。また、教育部としては、再配置の一つの必須条件のようなことで、再配置後の各校の専用バスの配備を目指したいと考えます。

(委員長) それが実現できれば、受け止め方が変わってきます。そのあたりは、一番大きなポイントではないでしょうか。

統合することにより、子供たちがよりよい施設で、安全安心によりよい教育が受けられる、というようなことで話を進めていただくといいと思えます。

(教育部長) P T A会長の中には、統合を進めるというところに、財政的に困窮していることも理由として、付記すべきだとの意見があります。市としても、財政面から統合が必要であることを言及すべきであるという意見でした。

(委員) 一般市民は、市がどういう財政状況かは分かっていると思えます。非常に苦しいという状況の中で、統廃合の問題も考えられているのは事実ですから、私はそのことはきちっと言えばいいと思えます。

一番大事なことは、子供の教育にとって、本当に少人数がいいのか、そうでないのがいいのかという、そこを十分理解してもらう必要があるのではないのでしょうか。市としては、財政的に苦しい面もあるが、統廃合を進めることにより、教育条件をよくするために、こういうことを考えている、ぜひ実現のために、というようなことを言う必要があると思えます。

(教育部長) 教育部としても、指針の中でも一番考えなくてはならないのは、教育環境として見たときに、一人二人の少人数では本当に子供のためになるのか、ということです。子供の教育環境を整え、理想的なものとするために、再配置をするという視点で進めたいと思っています。

(教育長) 教育委員の皆さんにもぜひご意見をうかがいたいことがあります。それは、子供の教育環境は分かるが、地域の文化拠点としての学校がなくなるということは、地域の衰退化につながるか、ということです。それゆえに、統合には賛成できないという提言が、かなりのパーセンテージを占めてくると思えます。このことに対して、教育委員会としてどうい

う見解を持つかということです。

(委員) 私の長女は、菅守小学校に子供を送っていますが、通学が大変です。また、子供は男1人女1人で、これでは本当の教育にはなりません。来年入る子も2人です。現実にはそういう問題が迫ってくると、本当にやむを得ない気がします。巴小学校も孫が入るときには4人です。このようなことを目の当たりにすると、4人では何もできない、これではしょうがないという現状が迫ってくる中で、親の意識も、勝手なことを言っではいけないと、変わってきていることは事実です。

(委員) 小学校は、地域文化の拠点になっていますか。

(委員) 例えば、運動会、学習発表会は、小さい学校では子供だけではとてもできません。すぐに終わってしまっしてしまいます。したがって、地域の行事として、老人会や消防団などが集まって盛り上げています。小学校が一つのいろいろなものの拠点になっているという側面はあると思います。

(委員長) 文化の拠点とか、心の拠りどころ、学校がなくなったらどうなってしまうか、地域が衰退する、本当にそうかと思います。学校がなくなっても、もう少し形を変え、知恵を絞れば、地域のためになる方策が可能ではないかと思います。そのために、具体的に何をどうすればいいのか、考えるべきだと思います。

学校がなくなると地域が衰退してしまう、寂しくなるというだけで反対の理由にするのはどうかと思います。

(委員) 統合を進める側の議論としては、そのようにならないようにしないと結論は出ないと思います。感情論で話を進めてもだめで、本当に子供たちをたくましく育てるためには、統合が必要だということです。

(委員) お年寄りの方に、実際に自分の地域から学校がなくなって、本当に廃れたかと思うか、というようなことを、具体的に聞いてみたらいかがですか。

(教育長) 結局、学校ではなくて、その地域の住民が本当に自分たちの地域を盛り立てようとするかしないか、ということにかかわる問題ではないかと思うわけです。学校に依存しなかったら、地域文化が存続できないではないかという意識と、学校に依存しなくたって地域文化は成り立つという、意識の差なのです。

(委員) やはり、その方向で行くしかないと思います。

(委員長) 現実問題として、学校を物理的に残し、地域で管理するとなると、管理は難しいですか。何か方法はないでしょうか。

(委員) 最初の2、3年は自分の学校がなくなるという郷愁、ノスタルジ的なものはあると思いますが、それは時間の問題という気がします。地域が管理すると言っても、年寄りばかりではそれも大変です。

(委員) 国も、学校統廃合については本腰で取り組んでいますが、何か新しい動きはありますか。

(教育部長) 小規模な学校については、積極的に統合を進めるということで、望ましいのは12学級以上というような指針は出ております。各学年2学級となりますが、新城では少なくとも1学校6学級、複式にならない規模というところを目指していきたいと、こちらからは出していますが、これについては、今後いろいろ検討されます。

(委員長) それでは、この問題については、いろいろ議論があると思いますので、これからも教育委員会会議で途中経過をご説明いただくというようなことでよろしいですか。山吉田小学校の問題は、これとは別に進める問題かと思いますが、どうでしょう。

(教育部長) 確かに、別の問題として考えなくてはいけないと思います。

また、耐震化は、非常に急を要する問題です。山吉田については、市が主体となって進めるべきだと、地元は考えています。

(委員長) ありがとうございます。

各課長から、次の事項について、説明等があった。

(2) 当面の行事予定について

(3) その他

日程第4 その他

—事務局から次回定例会日程を提案し、委員の承認を得る—

9月定例教育委員会日程

日時：9月25日(木)午後1時30分

場所：新城市はつらつセンター

7 閉会宣言 平成20年8月28日(木) 午後5時23分